

日時 令和2年7月3日（金）
授業場

児童 5年生
授業者

1. 単元名

未来を支える食料生産 ～米づくりのさかんな地域～

2. 単元の目標

- (1) 我が国の稲作が、自然条件を生かして営まれていることや、その生産に関わる人々の工夫や努力によって支えられていることを理解するとともに、地図帳や統計などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- (2) 稲作に関わる人々の働きを多角的に考える力、稲作に関わる課題を把握して、これからの稲作の発展について考え、表現する。
- (3) 我が国の稲作について、主体的に学習の問題を解決し、これからの農業の発展について考えようとする。

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習にかかわる態度
<p>ア 稲の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などについて、地図帳や統計などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、稲作の概要や稲作に関わる人々の工夫や努力を理解している。</p> <p>イ 調べたことを文や表などにまとめ、稲作は自然条件を生かして営まれることや、稲作に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。</p>	<p>ア 稲の種類や分布、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用、生産量の変化などに着目して、問いを見だし、稲作の概要や稲作に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。</p> <p>イ 稲作の変化と、稲作に関わる人々の工夫や努力とを関連づけて、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとにこれからの稲作の発展について考え表現している。</p>	<p>ア 我が国の稲作について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>イ 学習したことをもとにこれからの稲作の発展について考えようとしている。</p>

4. 単元のデザイン（全13時間）

次	○学習活動・学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	○他の食料と比べて、米の自給率がほぼ100%である理由について、調べたことをもとに理由を予想する。	・日本の主な食料自給率（米・小麦・大豆・果物・野菜・肉・魚介類）のグラフを提示し、米の自給率が高い理由を問う。			
2	○米の産地を白地図に表し、生産が盛んな地域はどこか分析する。 ○米の生産量ベスト3（過去10年）と北海道米の道内食率（過去20年）のグラフから、疑問に思ったことを交流する。	・米のとれ高（都道府県別）の分布図から、日本全国で生産されているが、特に北海道や東北で生産量が多いことに気付けるようにする。 ・米の生産量ベスト3（過去10年）と北海道米の道内食率（過去20年）のグラフを提示し、北海道産米の道内食率が上昇している理由を問う。			ア
なぜ、北海道産の米は人気上昇しているの？					
3	○学習問題について、既習内容や生活経験、各種資料を根拠にして予想する。 ○予想を明らかにするための調べる計画を話し合っ て決める。	・何についてどのような方法や順番で調べていくのか問う。 ・調べてわかったことを誰に伝えるとよいのか問う。			
【北海道米応援プロジェクト】人気UPの秘密を〇〇に伝えたい！ I					
4	○稲作に適した自然条件を知り、北海道のどの辺りで稲作が行われているのか調べる。 ○北海道以外の稲作地帯の自然条件も調べ、稲作に適した自然条件を知る。	・稲作に適した自然条件（水が豊かである、広くて平らな土地、適した温度など）を提示する。 ・「自然条件と人々の暮らし」の学習内容を	ア		

5		想起させ、空撮写真や雨温図、土地利用図などをもとに北海道の自然条件を捉えさせるとともに、他地域の米づくりの様子を提示し、比較することで稲作に適した自然条件を理解できるようにする。		
6	○品種改良について調べ、農業試験場の工夫や努力によってコシヒカリなどの味の良い米や、ななつぼしなどの寒さに強い米が作られたことを知る。	・米はもともとあたたかい地域で育つ食べ物であることを提示することで、なぜ北海道や東北地方などの寒い地域で生産量が多いのか疑問をもつことができるようにする。 ・米の食味ランキングを表示し、北海道や東北地方で作られる米が特に評価が高い特 A ランクを毎年獲得していることから、味のよい米、病気に強い米などを求めて農業試験場など様々な人の工夫や努力によって品種改良に着目できるようにする。	ア	
7				
8	○1年間の米づくりの作業の流れについて、順を追って調べる。	・資料をもとに調べ、春から秋の長い期間にかけて、様々な作業を通して稲が育てられていることが理解できるようにする。 ・茶碗→米袋→…と米の姿を逆順で問うことで、米づくりの手順について知らないことがあることに気付くことができるようにする。	ア	
	○お家の人（消費者）がどのような米を求めているのか整理する。（味・産地・価格・安全性・都合など） ○米づくりの作業の工夫について、農家の人たちが気を付けていることについて話し合う。	・家で調べてきたことをもとに、お家の人（消費者）が求めている米について考えさせる。 ・資料を提示したり、意味を問うたりすることで、水の管理やアイガモ農法、農薬や化学肥料の使用を減らして、農家の人が安全で良質な米をつくる工夫をしていることに気付けるようにする。		ア
	○米づくりの作業や耕地の変化の様子について資料を見つけて調べ、作業時間が減った理由を予想する。 ○昔と比べて米づくりが改善されてきたことを複数の資料から読み取る。	・昔と現在の農作業の様子を比較し、労働時間の変化のグラフを関連付けることで、現在は機械化や耕地整理などの工夫や努力によって、より短い労働時間で多くの米を生産できるようになってきたことに気付けるようにする。		ア
9	○米の流通の流れについて順を追って調べ、わかったことを整理する。	・スーパー等の売場の写真を提示し、表示に着目させることで、日本各地で生産された米が身近な場所でも販売されていることが気付けるようにする。 ・産地との距離や収穫日、値段等に着目させ、地産地消の良さについて考えることができるようにする。 ・複数の資料を提示し、関連付けて考えさせることで、米の流通経路には様々なものがあることと、輸送や販売に関わる人たちがいることで米は各地に届けられていることに気付けるようにする。	イ	
10	○米の消費量と生産量の変化や、それに伴う動きについて知り、日本の米づくりが抱える課題について考える。	・資料を提示し、傾向を読み取ることで米の生産量や消費量の減少、生産者の減少や高齢化、価格競争の激化など、日本の米づくりが抱える課題について捉えることができるようにする。 ・第2時で提示した「北海道米の道内食率UP」がわかる資料を再度提示する。		ア
	北海道の米づくりが、これからも発展し続けていくには何が大切かな？ 1			
		・前時までの既習事項をもとに、これからも北海道の米づくりの発展を続けていくためにどうしたらいいか自分なりの考えをもつことができるようにする。		

■ 社会科 【公民としての資質・能力の基礎を育む子供の育成】

11 本 時	○北海道の米づくりでこれからも発展を続けていくことについて、既習事項をもとに根拠をもちながら交流し、生産者や消費者の多角的な立場から、自分の思いや理由を整理し、表現する。	・前時の考えをまとめた座席型シートをもとに自分の思いや理由を書いたり、交流したりしながら、これからの北海道の米づくりの発展について大切なことを考え、表現できるようにする。		イ	
12	○これまでの学びを振り返り、自分の思いを誰に伝えていくと効果的なのか考え、文章で表現する。	・前時に考えたことをもとに、誰にどのようなことを伝えると効果的か問いながらまとめるようにする。		イ	

6. 本時の展開 (11/12)

(1) 本時の目標

生産者の高齢化（後継ぎ不足）や消費量・生産量の減少など稲作農家が抱える課題について、水の管理や品種改良，農業機械の導入など，稲作に携わる人々の工夫や努力を根拠に話し合いながら，生産者や消費者の多角的な立場からこれからの北海道の米づくりの発展を続けていくことについて考え，口述したり記述したりする。

(2) 本時の展開

<p>学習活動 児童・生徒の姿</p> <p>教師の働きかけ（○発問，△補助発問，□指示・説明）</p> <p style="text-align: right;">手立て</p>	<p>【評価の観点】</p> <p>◇評価の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導上の留意点
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 北海道の米づくりが，これからも発展し続けていくには何が大切かな？ </div> <p>1 前時の学習内容を振り返り，これからも北海道の米づくり農家が発展を続けていくには何が大切か，自分の思いや理由（根拠）を発表し合う。Ⅲ</p> <p>□なぜ，そう思ったのか，自分なりの思いや理由（根拠）を伝えよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【生産者】</p> <p>安心・安全な米づくり</p> <p>品種改良でもっとおいしくする</p> <p>⇒消費者が求めているから。</p> <p>農業体験活動を増やす</p> <p>⇒PRすると，生産者が増えるかもしれないから。後継ぎ問題が解決する。</p> <p>機械化をさらに進める</p> <p>⇒農作業が楽になるから。生産者が増えるかもしれない</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: 45%;"> <p style="text-align: center;">【消費者】</p> <p>ごはんをたくさん食べる。残さない</p> <p>⇒消費量が増えるから。生産者のためになる。</p> <p>米粉を使ったパンの販売</p> <p>⇒使い道を増やすと，消費量が増えるから。生産者のためになる。</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">⇔</p> <p>2 出された考えを全体で交流し，自分の考えをまとめる。</p> <p>□ 他の人の考えも聞いて，書き直したり，書き足したりして自分の考えをまとめよう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・農家の努力がもっと必要だと思っていたけど，お米をもっと食べるとか自分にもできることがあると思った。 ・農家の人の努力も大事だけど，自分たちにできることもやって，みんなで協力してがんばっていくことが大切だと思った。 ・品種改良とかも大事だけど，やっぱり機械化を進めて簡単に米づくりができるようにしていくことが大切だと思った。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の各児童の考えをまとめた座席型シートは，事前に配付しておく。 ・座席型シートをもとに，前時で考えた各自の考えを板書で可視化していく。 ・板書をもとに，これからの北海道の米づくりの発展における共通点や関連性を探ることできるようにする。 <p>【思・主】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇「これからの北海道の米づくりの発展」について，学習したことを根拠に交流し，生産者や消費者の立場から多角的に考え表現している。 </div>

■ 社会科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

社会科における Ls/Fs 育成のポイントは「市民性・地域参画力」

< 社会科で目指す子供の姿 >

「リーダーシップ・フォロワーシップ」育成のため、社会科においては今年度、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成に焦点をあて、研究を進めていく。

社会科における「市民性・地域参画力」の中で、市民性は、本教科の目標にも示されている公民としての資質・能力と同義で示される場合が多い。公民としての資質・能力とは、「よく生きたい、こうありたいと自己実現を図っていく中で、他者とかかわりながら、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度」（内山、2016）と解されており、未来を創り上げるためには、自分たちが生活する身近な地域や社会に参画しようとする態度が欠かせない。よって、市民性は本教科の目標であり、地域参画力は市民性の中に含まれる資質・能力と見做すことができよう。

市民性・地域参画力は、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を相互作用的に高めしていくことで育成されていくものである。附属釧路小・中学校社会科では、これらの資質・能力を各領域や単元の中でバランスよく育成していく。

社会科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する
- ② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す

① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する

パフォーマンス課題とは、「現実の世界（実社会・実生活）からの挑戦や問題（または模した問題）において、様々な知識や概念、スキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な評価課題」（三藤・西岡、2010）のことである。例えば、歴史的分野の二度の世界大戦と日本の単元において「日本はなぜ戦争の道へと進んでしまったのか、これからの日本や世界はどのような考え方や行動をしていけばよいのか」という評価課題が挙げられる。単元の中核を子供が探究していくためにパフォーマンス課題を単元に組み込むことで、個々バラバラな知識や概念、スキルが関連付けられ総合されて、他の単元の学習へも転移可能な深い理解へと到達することができると考えた。さらに、子供が現実の世界（実社会・実生活）と向き合っていくことで、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度が育まれる効果も期待できる。

② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す

各単元で学習を行うにあたり、資料や自己との対話で得た情報をもとに自分の考えを表現する必要がある。平成 29 年度に実践した本教科の研究では、資料提示の工夫から子供の新たな視点を引き出す教師の働きかけとして 3 点について考察した。その実践と検証を踏まえ、今回は、子供が生み出した問いや予想、立場や根拠などを書き込み、学習効果があると思われる場面で書き込んだ資料を子供に提示することに視点をあてる。立場や思考、根拠を可視化することで、意見の対立や、立場を導く根拠の差異が可視化されて対話を行う子供の姿が引き出されることができないのではないかと考える。その際に、「他者の立場や根拠が何を重視しているのかに気付き、自己の考えがより明確になる」（峯、2011）効果が期待できる。実際には、是非かのように立場が決まっている場合や、追究する視点が示されている場合等によって根拠や理由を問うのか、根拠や理由の下支えとなった視点を問うのかなど分野や単元によって指導方法は変わってくる。子供がそれぞれ調べた視点で考えを述べ合うプロセスの中で、リーダーシップ・フォロワーシップが発揮され、多面的・多角的な考察が可能となるような実践を行っていく。

引用・参考文献

- 1) 内山 隆、「共生への学び」、北樹出版、2016
- 2) 三藤 あさみ・西岡 加名恵、「パフォーマンス評価にどう取り組むか」、日本標準、2010
- 3) 峯 明秀、「社会科授業改善の方法論改革研究」、風間書房、2011

■本時で目指す児童・生徒の姿

今日の授業における「市民性・地域参画力」を高めるためのポイント

本時では、単元を通して学習した稲作に携わる人々の工夫や努力（水の管理や品種改良、農業機械の導入など）を根拠に交流しながら、生産者や消費者の多角的な立場から自分の考えを深めたり広げたりしていき、これからも北海道の米づくりが発展していくことについて、口述したり記述したりする姿。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す～Ⅱ

- ・本時では、事前に座席型シート（前時に考えた各児童の意見（根拠）を記入したもの）を配付し、それぞれの意見や根拠をお互いに把握することで、相手が何を重視して考えているのかに気付き、自分の考えを深めたり広げたりしていくことができるようにする。
- ・発表した意見を生産者と消費者の立場に分けて板書していくことで、これからの北海道の米づくりの発展で大切なことについて生産者や消費者など様々な立場や根拠から多角的に捉えることができるようにする。

北海道の米づくりが、これからも発展し続けていくために何が大切だろう？

あなたの理由や根拠を発表してみよう。



品種改良すると、もっとたくさん米をつくること
ができるようになりますと思います。

地産地消を大切にすると、消費量が増えると思
います。

生産者が減っているので、機械化を進めることが
大切だと思います。

お米のことについて、もっとPRしていくと、
後継ぎ不足の解決になると思います。

（必要に応じて立場を問う）

あなたの考えは、誰のための意見ですか？／誰がやることですか？



地産地消で消費量が増えると、農家（生産者）の
ためになります。

品種改良すると、消費者のためにも生産者の
ためにもなるよ。

PRは農家（生産者）の人がやっているけど、
自分たちにもできることがあります。

消費者は安全な米を求めているから、安心安
全な米作りは消費者のためだよ。

（必要に応じて意見をつなげる）

「生産者のために」という理由で別の意見の人がいましたが、〇〇さんはどう思いますか？



ごはんとして食べる以外にも、米粉を使ったパンがなどをたくさん作るように
すると、消費量が増えると思いました。

（児童の考えの変化とその理由を問う）

考えが変わった人はいますか？どうして変わりましたか？



消費量を増やすには、地産地消することが大事だと思っていたけど、同時にP
Rしていくこともできると思ったからです。

北海道の米づくりが、これからも発展し続けていくためには何が大切だと思いましたか？



農家の努力がもっと必要だと思っていたけど、お米をもっと食べるとか自分にもでき
ることがあると思った。

農家の人の努力も大事だけど、自分たちにできることもやって、みんなで協力してがん
ばっていくことが大切だと思った。

【板書計画】

7月3日（金） 北海道の米づくりが、これからも発展し続けていくには何が大切だろう？

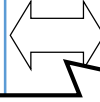
【生産者】

安心・安全な米づくり
品種改良でもっとおいしくする
⇒消費者が求めているから。
農業体験活動を増やす
⇒PRすると、生産者が増えるかもしれないから。
後継ぎ問題が解決する。
機械化をさらに進める
⇒農作業が楽になるから。生産者が増えるかもしれない



【消費者】

ごはんをたくさん食べる。残さない
⇒消費量が増えるから。生産者のためになる。
米粉を使ったパンの販売
⇒使い道を増やすと、消費量が増えるから。生産者のためになる。



（状況に応じて）まとめ

北海道の米づくりの発展のために、生産者と消費者がお互いの未来を考えていくことが大切。

